

邪馬台三國志 上、下 目次

◇家長と祭器 ◇倭国／倭奴国の国のかたち ◇中国神話と古代史

◇太陽（日） 神と牛頭天王の源流

倭国の生い立ち

●那珂つ国 ◇海神と不老長寿の仙薬・蓬萊郷づくり

倭奴国王朝

●天之国とオロチ敵之国王朝／太伯ら子孫と越オロチ族 ●倭奴国王朝／安曇族の建国

倭国大乱と邪馬台国

●豊葦原中つ国と伊都国の王朝 ●倭奴国王朝／安曇族の渡来

熊野権現

◇熊野権現 ●豊受皇太神 ●倭国大乱 ●伊弉諾の南遷 ●二人の天照大（御）神

東西の王朝

◇熊野権現 ●豊受皇太神 ●倭国大乱 ●伊弉諾の南遷 ●二人の天照大（御）神

天照大神

●天照大神、高千穂宮へ／天孫饒速日の天降り ●天日槍襲来

葦原中つ国

●葦原中つ国平定 ●天孫瓊瓊杵の出現 ●皇孫火瓊瓊杵の天降りと日隈（日前）

日神の畿内遷座

●日神の畿内遷座 ●天照大神（高皇產靈）の湖西高島宮と天成神道

倭の女王

●倭の女王ヒミコと纏向上之宮／皇孫火瓊瓊杵の日前国西都と天孫天火明の日高見国東都

皇子の交換

●皇子の交換 ●女王の朝貢 ●海幸彦と山幸彦 ●内部抗争

火明饒速日（海幸彦）

●火明饒速日（海幸彦）の天降り ●女王の伊勢遷座

日本王朝と日前の対立

●火明饒速日（海幸彦）の天降り ●女王トヨ ●一都七道制 ●天神火明饒速日

太子 磐余彦

●太子 磐余彦 ●景行の熊襲征伐 ●和玉 磐余彦 ●仲哀の熊襲征伐

天下は一つ、家は一つ（神武東征）

●新羅遠征 ●吉備征伐／高島宮／出雲征伐 ●生駒の敗北

熊野上陸

●熊野上陸／熊野権現の神倉山垂迹

日前宮の創祀

●日前宮の創祀／日本に迫る ●日本の降伏

大和朝廷の成立

●大和朝廷の成立 ●橿原宮 ●日本武尊の北伐 ●大和朝廷のはじまり1

大和朝廷のはじまり2

●大和朝廷のはじまり2 ●皇祖天神に奉る郊祭

伊勢神宮の祭祀変遷

◇伊勢神宮の祭祀変遷

『邪馬台三国志』目次項目の補足Ⅱ前五世紀〜邪馬台国史を動かした国々の解説

倭国の生い立ち／Ⅰ那珂つ国Ⅱ五帝期黄帝の一門(地の神)＋后土の国↓福岡平野に都す

Ⅱ天之国Ⅱ呉太伯・呉王夫差ら子孫が建てた国↓天(太陽)や日の神を崇拜

Ⅲオロチ敵之国王朝Ⅱ夏后小康庶子・越王句践子孫(越オロチ族)が建てた国↓福岡平野に都す

オロチを祖霊の再来として崇拜する敵之国本家の宗像家↓那珂つ国を出雲に追放後、一門を各地に策封

吉野ヶ里(伊都国)、吉備、出雲(オロチ佐太国)、撰津(小千族)、奈良盆地(三輪オロチ)、北陸(越オロチ)

Ⅳ倭国王朝Ⅱ高天(天)敵之国＋日高(韓一門)↓唐津湾岸唐津/福岡平野に都す

大倭国Ⅱ副都唐古の経営・東方統治を管轄。日隈(熊野家)Ⅱ熊襲の統治・布都斯魂剣で天神と朝廷を守護

Ⅴ豊葦原中つ国王朝Ⅱ豊国(漢一門)＋葦原家(敵分家)＋中つ国↓福岡平野の早良/春日に都す

宗像家Ⅱ敵之国本家↓宗家に祭り上げられ、玄海・宗像の片田舎に幽閉される

Ⅵ伊都国王朝Ⅱ吉野ヶ里の敵分家伊都国Ⅱ大倭家↓吉野ヶ里から福岡平野に乗り込み、怡土に都す

倭奴国王朝(倭国)高天、日高(天)之国(奴国)Ⅱ一世紀前半)／倭国大乱

東西の王朝／瑞穂敵之国王朝(大倭唐古に都する邪馬台国)Ⅱ水天神天照大神がオロチ敵之国王朝を再現

(大乱後の高天(倭の国名を奪われた倭奴国)Ⅱ高千穂宮に天宮して、天照大神を日神(日天神)に奉る)

(吾田に降臨した火瓊瓊杵が笠沙宮に都した国Ⅱ日隈(日前、後に日前に改名)Ⅱ日隈(熊野家)の継承国)

倭の女王／倭国(天)敵之国王朝、関西↓副都伊都国・奴国Ⅱ東西の王朝が合体して女王を共立…二二〇年代前半

(倭女王ヒミコⅡ天照大御神が日天神を降り、邪馬台国の纏向上之宮に遷座。伊都国(吉野ヶ里)に副都設置)

(勢力圏Ⅱ倭国(西都市妻)に都する火瓊瓊杵の日前(東都(市原市惣社)に都する天火明の日高見国)

日本王朝と日前の対立／日本(日本の倭)朝Ⅱ火明饒速日(火瓊瓊杵の児火明、海幸彦)が倭国を継承した王朝

(日前(日前の継承国)Ⅱ火火出見(天火明の児誉津別、山幸彦)率いる王朝↓後に和国と改名)

天下は一つ、家は一つ(神武東征)／磐余彦が祖父の火火出見を襲名して日向から東征…二八五〜二九八年)

大和朝廷の成立(和国が大倭国と共立した大和家に日本家・豊葦原中つ国・敵之国等を併合…三〇一(辛酉)年)

(物部氏Ⅱ帰順後、軍事筆頭職に拔擢された可美真手(火明饒速日の児)の姓。布都御魂剣で朝廷を守護)

◆繩文晩期の那珂つ國……死返玉・道返玉など玉八つに加えて、熊の神籬・蜂の領巾など玉つ宝十種

◆前五世紀の天_之國……日鏡、奥つ鏡・辺つ鏡など鏡三面

◆前四世紀の敵_之國……死返玉など玉五つ(もと那珂つ國祭器)、奥つ鏡・辺つ鏡(もと天_之國祭器)に加えて、敵_之國本家の宗像家 軍団を指揮する八握の細形銅劍(神璽、船団を指揮する蛇の領巾など瑞宝十種

◆前四世紀の熊族(熊襲)……銅矛、日鏡(もと天_之國祭器)、玉三つ(もと那珂つ國祭器)、熊の神籬など熊族神宝

◆前三世紀の倭國王朝(高天)……北方系銅鏡 日限(熊野家)……瓊矛、日鏡・玉三つ、熊の神籬など日限神宝

◆豊葦原中つ國の天叢雲……天璽の天叢雲劍、死返玉など玉五つ、奥つ鏡・辺つ鏡、蛇の領巾など瑞宝十種

◆敵_之國宗家の宗像家……玉五つ、奥つ鏡・辺つ鏡、八握の細形銅劍(天叢雲劍)、蛇の領巾など瑞宝十種

◆倭奴國王朝初代女系天神の天常立……光武帝から賜る天璽の方格規矩鏡

◆日限(熊野家)の伊奘諾……神璽の金印「漢委奴國王」、神璽の瓊矛・日鏡・熊の神籬など日限神宝、

布都斯魂劍で倭奴國王朝と天神を守護

◆邪馬台國の水天神天照大神……新たに鑄た天璽の天叢雲劍(中細銅劍) 火天神天鹿兕山……天璽の羽羽矢

◆宗像家宗女の田心姫……玉五つ、奥つ鏡・辺つ鏡、八握の細形銅劍(天叢雲劍)・蛇の領巾など瑞宝十種

◆日神の天照大御神……石窟戸前で鑄た天璽の伊勢大神(三角縁神獸鏡) 倭女王ヒミコ……伊勢大神、魏帝鏡

(方格規矩鏡)、神璽の金印「親魏倭王」、豪族に配る鏡(祭祀用八咫鏡と魏帝鏡)

◆素戔嗚……日矛・日鏡など熊野家神宝、日前鏡、布都斯魂の十握劍で大蛇(天照大神親子)退治

◆高千穗宮の高皇產靈……高千穗宮赴任前に鑄た布都御魂の十握劍、自身の神像としての天叢雲劍(中細銅劍)

(高千穗宮に赴く天照大神) 布都御魂劍に、「刃に血塗らずして倭國統一(高天十邪馬台國)」を誓う

◆日前の皇孫火瓊瓊杵……天神の御子と印す羽羽矢、石窟戸前で鑄た八咫鏡(日前鏡)・天叢雲劍など三種宝物

◆日本朝の火明鏡速日……神璽の十握劍二振り(布都斯魂劍と布都御魂劍)、天神の御子と印す天璽の羽羽矢、

天神天照國照彥火明……鏡作郷で鑄た神璽の天照御魂神(天璽の鏡の形代、天照國照彥火明命) 天璽の瑞宝

布都斯魂・布都御魂の十握劍二振りに、倭國統合(日本朝による和國併合)を誓う

◆和の磐余彦……羽羽矢、日前鏡、葬送用八咫鏡、敵から手にした日矛(熊野権現御魂)・布都御魂劍

◆大和朝廷の神武(磐余彦)……笠縫邑で新たに鑄た神璽の八咫鏡と草薙劍(天璽の鏡劍の形代)

◆火明鏡速日子孫の物部氏……布都御魂劍を授かり、朝廷と磐余彦火火出見の宮殿守護を誓う。瑞宝を朝廷に奉獻

『邪馬台三国志』上 梗概（あらすじ）

縄文中期、黄帝末裔が渡来し、北九州に地の神を祀る那珂つ国を建てた。

前五世紀、呉太伯ら子孫が九州西北に渡来して日の神を奉る天之国を興し、水田稲作を広めた。双方は盟約して畿内まで進出した。

前四世紀、越オロチ族が襲来し、北九州にオロチ敵之国王朝を開いた。

前三世紀、天之国は韓系日高国と組んで倭国王朝（高天）を開き、北陸や濃尾に進攻した。以後、豊葦原中国、伊都国、女系天神を担ぐ倭奴国の王朝が興った。

一八〇年頃、七代倭王で日隈王の伊奘諾は、六代女系天神天尾羽張から東方統治建て直しを詔されると、東の副都唐古を治める豊受皇太神（天神宗女向津姫の婿、天照皇太神）を率い、鎮圧に動いた。その最中に、皇太神がオロチの三輪大物主と組み、謀反した。

一八五年、神戸市東部で大乱が勃発し、出雲に飛び火した。伊奘諾は闇見国（月夜見国、黄泉国）で惨敗し、向津姫・素戔嗚・宗像三皇女と共に日向に逃れた。勝った皇太神は、瑞穂敵之国王朝（邪馬台国）を建てると、天叢雲、大蛇、水天神天照大神と語って天叢雲剣を天璽に奉り、仏法流布・常世づくりに入れ込んだ。児の天鹿児山（天羽羽）も火天神に立ち、羽羽矢を天璽に奉った。

一八〇年代後半、高千穂郷に遷座した向津姫は天照大御神と語って高天を再興した後、八咫鏡（唐草文帯三神二獣模様の三角縁神獸鏡）を天璽に奉って天宮高千穂宮に坐し、現人神の日神に昇った。ここに倭奴国王朝は東西に分裂した。これが倭国大乱だ。

この間、倭奴国再興にはやる素戔嗚は、養子五十猛・宗像三皇女を連れて新羅に渡り、時節到来を待った。

一九〇年頃、宗像三皇女と共に奥出雲に潜入した素戔嗚は、布都斯魂の十握剣で八岐大蛇（八柱雷、天照大神親子）を討つて天叢雲劍・羽羽矢を奪い、日神に送り届けた。その後、大国主を襲名して豊葦原中つ国再建に奮闘したが実子大己貴に邪魔された。

その後、大己貴が葦原中つ国建て直しに成功して、伯耆・安芸・播磨に勢力を広げた。五十猛（天日槍）は素戔嗚の不遇を耳にすると、甲兵八千を率いて襲来したが、播磨宍粟邑で大己貴の謀略、「火牛の計」にはまって惨敗した。

勢いに乗った大己貴は越（高志）オロチと組み、邪馬台国を攻め立てた。防戦一方の天照大神は、日神への大政奉還、倭国統一（瑞穂巖之国王朝十高天）が最善と悟った。

二一〇年代頃、天照大神は布都御魂の十握剣を新造して倭国統一を誓った後、高皇産靈と称して高千穂宮に赴き、妻の日神に再開した。数年後、経津主と武甕槌を葦原中つ国に派遣して大己貴に国譲りさせた。

二二〇年代前半、皇孫火瓊瓊杵に天叢雲劍・八咫鏡（日隈鏡）など三種宝物、天神の御子と印す羽羽矢、日矛・日鏡など日隈神宝を授けて吾田降臨を命じた。

直後、大倭に戻って天孫天火明（二代垂仁）に日高見国を建てさせ、関東・常陸・陸奥の制圧を命じた。同じ頃、日神も大倭に向かった。その途上で夫が逝った。

『邪馬台三國志』下 梗概（あらすじ）

纏向入りした日神は、邪馬台・高天双方から倭女王ヒミコに共立されるや、鬼道を操る祭祀の上にも、八咫鏡で日の神を奉る祭祀を覆いかぶせた天（厳）之国王朝（倭）に模様替えした。ついで伊都国（吉野ヶ里）を副都と定め、天（厳）軍常勝將軍武甕槌を常駐させた。

一二〇年代前半、火瓊瓊杵は笠沙に都して日隈を再興した。数年後、西都市に遷都して日前と改名した。一方の天火明は日高見国を市原市惣社に遷し、東都を開いた。

一三八年、ヒミコは魏に使節を送り、金印「親魏倭王」・方格規矩鏡百・五尺刀二等を賜った。

一二四〇年代中頃、ヒミコと火瓊瓊杵が争い出した。その最中に天火明が女王に謀反したが、敗れて常陸に遁走した。その後、ヒミコは火瓊瓊杵と和睦してその児海幸彦（火明饒速日）を呼び寄せ、瑞宝・羽羽矢・十握劍二振り（布都斯魂劍と布都御魂劍）・天照御魂神の八咫鏡を授けて日本家を建てさせた。直後、倭姫と共に天叢雲劍を奉じて伊勢に遷座し、夫の再来を祈り続けた。

一二四〇年代末にヒミコが逝くと、火明饒速日（三代垂仁）は、十握劍・八咫鏡を神璽として日本朝を開いた。

二代女王トヨの晋朝貢後、彼は円墳ヒミコ陵を帆立貝型前方後円墳に改造して郊祭するや、瑞宝・羽羽矢を天璽として天神に立った。同じ頃、火瓊瓊杵跡継の火火出見も、和国と改名して倭国統合を叫んだ。

一二七〇年代後半、景行は天神から熊襲征伐を下命されたが、敗れて六年囚われた。

二八〇年代前半、仲哀が倭国統合を誓った布都斯魂剣を授かり、橿日宮築造と熊襲征伐を下命された。彼は紀伊名草で祀られていた日矛を持ち去り、橿日に赴いた。仲哀妃で四代女王神功、武内宿禰、日本武も出陣した。

火火出見跡継の磐余彦は、二八五年八月、「刃に血塗らずして勝つ」・「天下は一つ、家は一つ」(倭国統合)を合言葉に東征を決意するや、日向から橿日宮に進軍した。結果、仲哀軍が惨敗し、神功・武内宿禰・日本武は東征軍に寝返った。

東征軍は吉備・出雲を征圧して摂津六甲山南麓に進攻した後、河内湖経由で生駒山西麓に上陸したが、惨敗して那智に迂回した。

三世紀末、熊野から北上した磐余彦本軍、女神大山祇・海神本家筋、海神三神・住吉三神ら諸軍が纏向や三輪に殺到して日本朝を降すと、火明饒速日は羽羽矢・瑞宝を差し出し、帰順を願い出た。この間、倭女王は、豊鍬入姫↓倭迹迹日百襲姫↓神功皇后↓倭姫と続いた。

三〇一年元旦、磐余彦(神武)は橿原に都して大和朝廷を開き、初代天皇(始馭天下之天皇)に即位すると、大倭王開化の皇子(崇神)を太子に指名した。

ついで火明饒速日の児可美真手に物部姓と共に瑞宝・十握剣を授け、かつて海幸彦が火火出見に誓った宮殿警護と大和朝廷守護を厳命した。

三〇四年二月、神武は鳥見山中に日向式柄鏡型前方後円墳(桜井茶臼山古墳)で郊祭して天照大御神と高皇産霊を天に配し、皇祖天神並びに皇祖皇宗に奉った。